

【トピックス】

■若手職員による研究行政交流会を開催 ～霞ヶ関にて～

10月11日と18日、農水省内の会議室にて、研究行政交流会を開催しました（参加者数のべ40名弱）。

農村振興局の若手の勉強会にお邪魔する格好となったため、開始時刻は18時30分に設定しました。

はじめに、出席者全員が手短かに自己紹介を行い、その後、農工研の若手研究者が研究成果を発表しました。＜発表者の平均年齢は31才でした＞

発表内容の多くは直近の学会発表であり、最新の研究成果を紹介しました。引き続き、質疑を通じて意見交換を実施しました。

行政官からの主な発言として、

- ・現場（農家、行政機関）への成果還元を常に意識して研究を実施して欲しい。
- ・本省でも関連する業務があるので、連携が図れないだろうか。
- ・本省と農工研の間で密な情報交換は必要である。

出席者の多くが、定期的な交流の機会が少ないことを憂いており、相互に交流を深めることで研究・行政いずれにとってもメリットが増えることを期待していました。



写真1：第1回交流会（10/11）



写真2：第2回交流会（10/18）

表1：研究行政交流会のプログラム

	第1回 10月11日火曜日（局2）	第2回 10月18日火曜日（局1-①）
	発表演題、発表者（所属）	発表演題、発表者（所属）
18:35 ～ 18:55	津波により冠水被害を受けた砂質畑の土壌塩分モニタリング 亀山幸司（農地基盤工学研究領域 畑地工学）	ストックマネジメントにおける水理性能照査事例としての開水路段落ち部の水位安定性 中田 達（水利工学研究領域 水路システム）
18:55 ～ 19:15	農村地域におけるバイオマス利活用が環境へ及ぼす影響の予測 折立文子（資源循環工学研究領域 資源循環システム）	地すべりに係るこれまでの研究と今後の研究について 正田大輔（施設工学研究領域 広域防災）
19:15 ～ 19:35	降雨パターンの変化が低平地排水へ与える影響の評価 皆川裕樹（資源循環工学研究領域 水資源工学）	ランドスケープの概念を用いた研究の展開について 栗田英治（農村基盤研究領域 資源情報）